

## 活動と資料

# オープンキャンパスにおける模擬演習の試み —基礎看護領域の実践—



久留島美紀子、伊丹 君和、本田可奈子、江藤美和子、豊田久美子、森下 妙子  
滋賀県立大学人間看護学部

キーワード 基礎看護技術, 模擬演習, オープンキャンパス

## I. はじめに

これまで基礎看護領域では、オープンキャンパスにおいて「指一本でできる体位変換」、「車椅子乗車」、「寝たまま食べてみる」などの体験コーナーを設け、来訪者の看護に対する興味や関心を高めるような工夫を行ってきた。しかし、来訪者が重なりと十分な説明や体験してもらったりすることが出来ない場合が多く、興味や関心を高めるような働きかけができない場合もあったため、工夫の必要性を感じてきた。

そこで、来訪者の看護に対する興味や関心を高めると共に、基礎看護領域でどのように科学的根拠に基づいた看護教育を志向しているかについて、体験を通して知ってもらうために基礎看護領域で担当している科目の中でも、あらゆる看護技術のベースとなる基礎看護技術に関する科目である「生活行看護論演習」の模擬演習を行うことを試みた。

分けるために、参加整理券を事前に配布した(図1)。さらに、実習室後方に見学席を設け、参加できなかった人や、途中入室の人のために配慮した(図2)。



図1 模擬演習告知のパネルと整理券

## II. 方法

テーマを「ナルホド! 身体の不思議と看護」(図1)とし、模擬演習では参加者に分かりやすいよう、生活行動のうち「動くこと」、「食べること」を内容として取り上げた。実習室のスクリーン方向にベッドを5台配置し、それぞれベッドに1名の教員または学生をチューターとして配置することにより、細かなサポートができるように配慮した。また、参加人数をコントロールするとともに、参加者を偏ることなく5~6人ずつ各ベッドに振り

まず、「動くこと」では模擬患者に心電図モニターと血流センサー(腸骨部)を装着してもらい、安静時(仰臥位)と体動時(ベッドサイドで足踏み)とで心拍数、呼吸数、血圧といった生体反応が変化する様子をスクリーンに映した(図3, 4)。次に、仰臥位から側臥位への体位変換により、腸骨にかかる圧力の大きさと、その際の血流の変化をスクリーンに映した(図5)。このように、肉眼では見えない身体の内側で起こっている変化を科学的根拠として示しながら、その変化がどのような意味を持つのかについて分かりやすく説明をおこなった。また「食べること」では、人間の口腔から胃にかけての断面図をスクリーンに映したり、嚥下モデル(老年看護学から借用)を用いて、嚥下のメカニズムを分かりやすく説明する工夫をした。さらに、「動くこと」に関連づけた

2006年9月30日受付、2007年1月9日受理

連絡先: 久留島美紀子

滋賀県立大学人間看護学部

住 所: 彦根市八坂町2500

e-mail: kurushima@nurse.usp.ac.jp

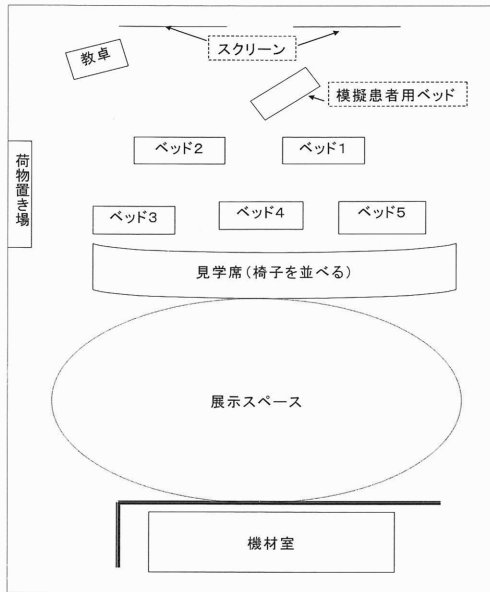


図2 模擬演習時の実習室レイアウト

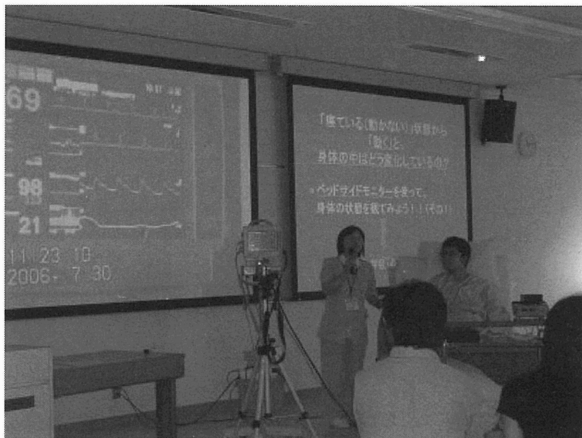


図3 スクリーンに模擬患者の生体反応を映しながら説明を行う教員(1)



図4 スクリーンに模擬患者の生体反応を映しながら説明を行う教員(2)

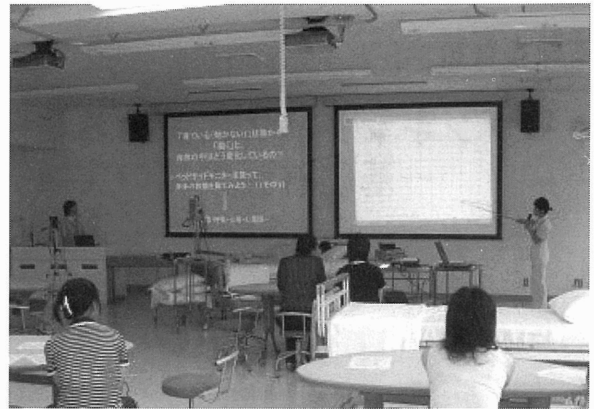


図5 スクリーンに模擬患者の生体反応を映しながら説明を行う教員(3)

体験内容の一つとして「指一本できる体位変換」、「食べること」に関連づけた体験として「寝たまま食べてみる」ことを行った(図6)。

これらの体験時には、各グループのチューターが、補足説明や促しなどのサポートを行い、体験がスムーズに進むよう心がけた(図7)。最後にアンケートを依頼した。

### Ⅲ. 結果

47名の参加者からアンケートに回答を得られた。うち有効回答は44名分(93.6%)であった。アンケートの質問項目は「大学での学習のイメージ」、「看護師の仕事に対するイメージ」、「看護職という職業に対する関心」の3項目と、自由記述とした。その結果、大学での学習のイメージは、28名(63.6%)が「できた」、16名(34.6%)が「ややできた」と回答し、「あまりできなかった」、「できなかった」の回答はなかった(図8)。また、「看護師の仕事に対するイメージ」については、19名(43.2%)が「できた」、25名(56.8%)が「ややできた」と回答し、「あまりできなかった」、「できなかった」の回答はなかった(図9)。そして、「看護職という職業に対する関心」は、70.5%にあたる31名が「高まった」と回答した。「やや高まった」は11名(25%)、「あまり高まらなかった」2名(4.5%)、「高まらなかった」の回答はなかった(図10)。

自由記述の内容は、一文ごとに整理し同じ意味内容ごとにカテゴリー化したところ、3カテゴリーが抽出された(表1)。

カテゴリーⅠ【情意的感想】には、『面白かった』、『楽しかった』などの模擬演習に対する率直な感想と、『指一本で体を動かせてびっくり』など、身体の不思議についての驚き、そして『看護はすごいと思った』とい

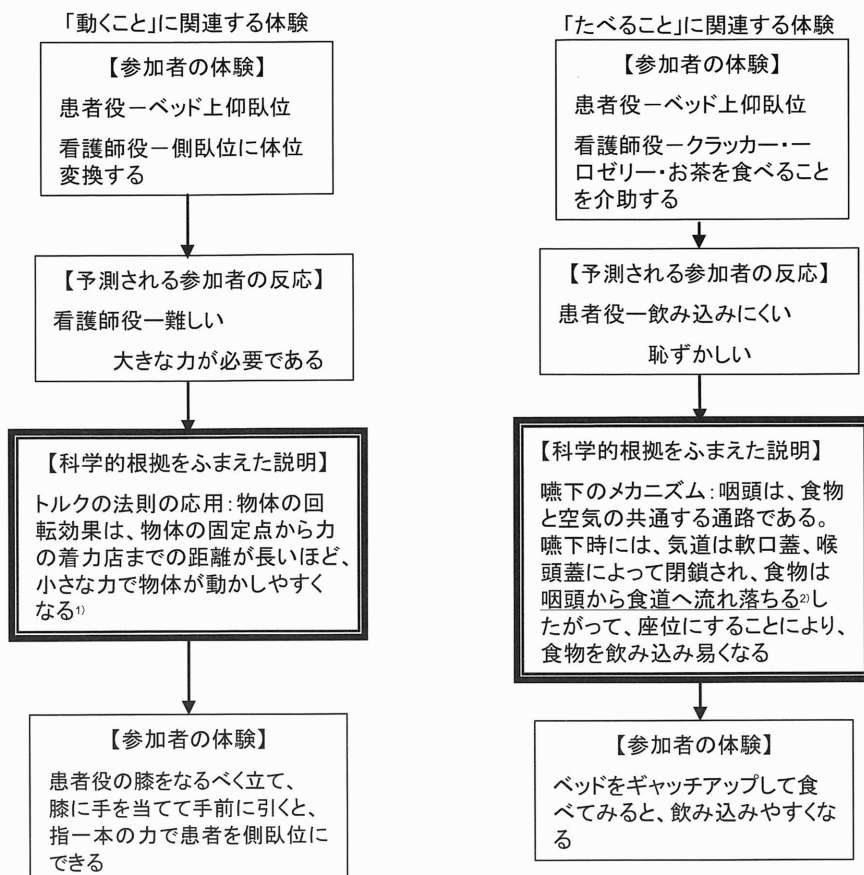


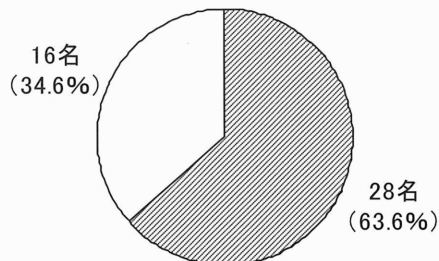
図6 参加者の体験の流れ

う情意面を表現した感想の3サブカテゴリーが含まれていた。カテゴリーII【認知的感想】は、『実際に患者側の立場にならないと気づかないことがたくさんあることが分かった』、『勉強になりました』、『短時間の体験だったけど、沢山のことを学ぶことが出来たと思います』な

ど、模擬演習で新たな知識を得たという認知面に関する感想の2サブカテゴリーから成っていた。カテゴリーIII【人や設備の発見】には『先輩の話が聞けてよかった』、『きれいに整った実習室とビデオやスクリーン等設備も充実していて、入学できれば大変嬉しい大学だと思いました』など、人との出会いや設備に関する感想である2サブカテゴリーが含まれていた。

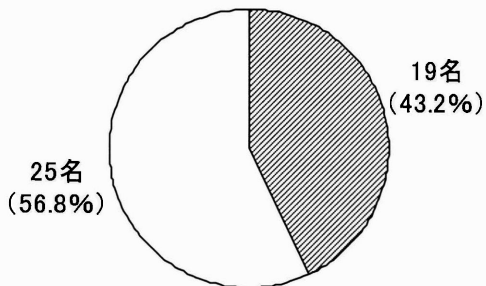


図7 参加者をサポートするチューター（学生）



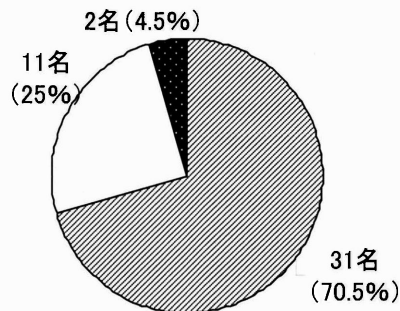
■できた □ややできた ■あまりできなかった □できなかった

図8 大学での学習イメージ



□ できた □ ややできた ■ あまりできなかった □ できなかった

図9 看護師の仕事のイメージ



■ 高まった □ やや高まった  
■ あまり高まらなかった □ 高まらなかった

図10 看護師という職業への関心

表1 模擬演習の感想

カテゴリー	サブカテゴリー	記述内容
I	1	楽しかった。 楽しかったです。 めっちゃ楽しかったです。 友達の付き添いできただけやけど結構楽しかった。 とても楽しかったです。 実際に体験できて面白かったです。 とても楽しかったです。 面白かったです。 おもしろかった 体験して初めて分かったことがあって楽しかったです。 とても楽しかったです。
	2	人の体を起こす事は少し方法を知っているだけで全然違うことがわかり、指一本で体の向きを変えられた時は少し感動しました。 寝てみえる人を横向きにするのも少し工夫すれば楽に出来ると思ひ、すごかったです。 寝たきりの方の体位変換が簡単に出来ることを教わって大変為になりました。ありがとうございます。 指一本で体を動かしてびっくり。 人をただ横に倒すだけでもコツがあるので分かって、看護のすごさに触れられてよかった。 人間の不思議、看護は人間がかかわりあってどうやって接していくのかがよく分かった。 人間で不思議だなと思いました。 なるほどって思いました。 体位を少し変えるだけでも楽に出来るんだな一と思った。 ベッドをあげるだけで食べやすくなったり、少しのこをすることでよくなって、考えてすることが大切なんだな一と思った。
	3	看護はすごいなと思ひました。 看護に興味を持ってました。 もっといろんなことができたらいひです。 以前より看護学部に対する関心が高まった。 看護について学んで、いろいろな発見をしたりして、将来患者さんのためになる知識をたくさん身につけたいです。
II	1	今まで入院等したことがないので、自分が被看護者になれてよかったです。 体験できてよかったです。 実際に患者側の立場にならないと気づかないことがたくさんあることが分かった。 患者さんのことを考慮して看護しなければいけないと思ひました。 看護師さんだけじゃなくて患者さんの立場に立てたのがすごいよかった。
	2	勉強になりました。 短時間の体験だったけど、沢山のことを学ぶことが出来たと思ひます。 援助は本当に難しいものだと思ひました。 短い時間だったけど、知らなかったことを沢山知ることが出来ました。 勉強になりました。 健康でいられることを幸せだと感じました。
III	1	学生さんの感想がよかったです。 先輩の話が聞いてよかった。 先輩に優しく教えてもらって興味がありました。
	2	備品、資材が充実していると感じた。 きれいに整った実習室とビデオやスクリーン等設備も充実していて、入学できれば大変嬉しい大学だと思ひました。

#### IV. 考 察

結果より、全員の参加者が「大学での学習のイメージ」ができたことから、模擬演習の内容は大学での学習を伝え、参加者のイメージを高める内容であったと考えられる。また「看護師の仕事に対するイメージ」については、誰もが風邪を引いて受診したような経験や、看護師を扱ったテレビドラマなどを見た経験があると推測され、程度の差はあると思われるが、看護師の仕事に対するイメージはある程度持っていたものと思われる。しかし、今回、模擬演習で行った内容は、外来受診やテレビドラマで見ることの少ない、体位変換や食事介助の援助技術であった。そのため、「できた」19名(43.2%)よりも「ややできた」の回答が25名(56.8%)と最も多かったものと推察される。しかし「あまりできなかった」、「できなかった」と回答した者がいなかったことから、個々の持つ看護師の仕事のイメージの形成を促したと推察される。

また、「看護職という職業に対する関心」は、31名(70.5%)に及ぶ参加者が「高まった」と回答していることから、看護に対する興味や関心を高めるという模擬演習の狙いはほぼ達成されたと考えられる。

さらに自由記述の結果から、参加者が楽しみながら演習に参加し、身体の不思議に驚きつつ、患者の気持ちを体験できたことなど、学びが多かったことが示され、看護そのものに対する興味の高まったことが記述されていた。このことから、科学的根拠も交えながら、実際に近いかたちで行った模擬演習は、基礎看護学で志向している教育を伝えることができたと考えられる。

#### IV. 結 語

受験生である18歳人口は平成4年の204.9万人をピー

クに、右肩下がりの状況であり、平成19年には130万人を切る129.9万人に減少すると推測されている。一方、平成18年度の学校基本調査によると大学数は全国で744校あり、前年と比べ18校増加している<sup>3)</sup>。また、看護系の大学、学部等は145校であり、平成19年にも10数校が開設の予定である<sup>4)</sup>。以上のことから、受験者、入学者の確保が一層厳しくなると考えられる。

今回、来訪者の看護に対する興味や関心を高めると共に、基礎看護領域でどのように科学的根拠に基づいた看護教育を志向しているのかを体験してもらおう方策として模擬演習を試みた。終了後のアンケート内容から、これらは評価できる結果となり、今後のオープンキャンパスの内容について示唆が得られた。些細な試みではあるが、本学、本学部の魅力を伝える一助となるよう改善を重ねたい。

#### 文献等

- 1) 川島みどり監修：実践看護技術学習支援テキスト基礎看護学，p182～183. 日本看護協会出版会，第1版3刷，2005.
- 2) 菱沼典子著：改訂版看護機能形態学，p115，日本看護協会出版会，第2版1刷，2006.
- 3) 文部科学省ホームページ，学校基本調査平成18年度速報[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/001/06080115/index.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/06080115/index.htm)
- 4) 東京アカデミーホームページ，看護系大学一覧&リンク<http://www.tokyo-ac.co.jp/med/m0-1kaandai.html>

# The Demonstration of Fundamental Nursing Skills at the Open Campus —The Practical Lecture Given the Department of Fundamental Nursing—

Mikiko Kurushima, Kimiwa Itami, Kanako Honda, Miwako Eto  
Kumiko Toyoda, Taeko Morishita

School of Human Nursing, The University of Shiga Prefecture

**Key words** fundamental nursing, skills, demonstration, open campus